

実験動物医学

NO.57/2021.9

Japanese Association for Laboratory
Animal Medicine (JALAM)

日本実験動物医学会
事務局 (株) アドスリー内
〒164-0003 東京都中野区東中野4-27-37
TEL. 03-5925-2840, FAX. 03-5925-2913
URL <https://jal.am.jp/htdocs/>

主な内容

● 巻頭言	2
● 学会案内 (学術集会委員会) 第164回日本獣医学会学術集会	4
● JCLAM (JALAM共催) ウェットハンド研修会報告	10
● JCLAM (JALAM共催) ウェットハンド研修会案内	12
● 2020-2021年度臨時総会開催報告	13
● 2021-2022年度総会開催案内	14
● 理事会報告	15
● 委員会報告	
1. 実験動物学教育委員会	17
2. 学術集会委員会	17
3. 情報・編集委員会	17
4. 研修委員会	18
5. 前島賞選考委員会	18
6. 実験動物法規等検討委員会	18
● 日本実験動物医学専門医協会 (JCLAM/IACLAM)	
1. 実験動物医学専門医協会 (JCLAM) からの挨拶	19
2. 2021-2022年度総会開催案内	21
3. 理事会報告	21
4. 2021-2022年度JCLAM専門医認定審査・専門医資格更新 スケジュール	23
5. IACLAM	24
● JCLAM委員会報告	
1. 総務部	25
2. 認定委員会	25
3. 試験問題作成委員会	27
4. 試験実施委員会	27
5. 試験問題検討委員会	28
6. 学術委員会	28
7. 研修委員会	28
8. 国際渉外委員会	29
9. レジデントプログラム委員会	30
10. 将来検討委員会	31
11. 認定試験ワーキンググループ	31
● 特集「JALAM会長の9年間を振り返って」	32
● 事務局便り 会費納入状況とお願い	35
● 編集後記	36

巻 頭 言

「情報発信のあり方を考える」

北里大学 獣医学部
佐々木 宣哉

会員の皆様におかれましてはコロナ禍の中ご苦勞はいかほどかと拝察致します。13年ぶりに酪農学園大での獣医学会学術集会が開催され、主催者、JALAM理事会も9月の開催を楽しみに準備を進めてまいりましたが、感染拡大の影響を踏まえWebにて開催することになりました。Web上では、シンポジウム、一般演題等を視聴いただけます。一般演題は、チャット機能を利用して活発な討議が行われることを期待します。

科学研究の継続や進展のためには一般市民の支持が必要不可欠です。毎年、Gallup社のアメリカ人の“実験動物を使った医学研究”に対する世論調査に注目しておりますが、2001年～2019年にかけて徐々に低下してきました（容認率、65% → 50%）。昨年はコロナの影響もあり56%と上昇しましたが、2021年に再び50%に低下しました。日本がお手本としてきた米国の動物福祉政策を以ってしても、容認率の低下は避けられないようです。今回は、関連する話題として、一昨年のJALAS総会にて、塩谷恭子先生が企画された英国Understanding Animal Research (UAR) の活動の一部を紹介させていただきます。

(UARのHP, <https://www.understandinganimalresearch.org.uk>)

UARは、代表のWendy Jarrett氏と8名の職員で運営されるNPO団体で、動物実験に関する情報の透明性を高め、英国国民から理解・支持を得ることを目的としている。現在、英国の124の主要な研究機関（公的研究機関、大学、学会、製薬会社、飼育関連機器会社等）がUARに加盟し、加盟施設は下記の4つの協定を結び、UARは加盟施設への指導・助言を行う。

1. 実験に動物を使用する場合、いつ、どのように、なぜを明確にする。
2. メディアや一般市民に対し動物実験についてより積極的に情報を公開する。
(HPに情報を掲載し、問い合わせや質問には確実に回答すること等)
3. 自ら進んで動物実験について国民が知る機会を増やす。
(出前授業や施設内のバーチャルツアー動画を公開する等)
4. 年に一度、UARに活動内容を報告し、加盟施設間で情報（成功/失敗体験）を共有する。

加盟施設のうち、マスコミ向けに動物実験の情報を積極的に提供している施設は61箇所、外部の訪問客を受け入れた施設は57箇所、学校に演者を派遣あるいは施設に学生を受け入れた施設は56箇所、マスコミの撮影を受け入れた施設は13箇所である（2019年）。情報公開において先駆的な

試みを行った施設には、12月に開催される情報公開表彰式において表彰される。

UARは他にも様々な活動を行っている。Webサイトには様々な情報や統計データ、国内外の実験動物を用いた研究に関するニュースが提供されている。様々な動物実験のプロトコールについて、目的や利点だけでなく苦痛についても紹介され、また、学生、ジャーナリスト、一般人向けに動物実験の情報を提供するウェブサイトanimalresearch.infoや、複数の動物施設のバーチャルツアーが体験できるlabanimaltour.orgも作成している。twitter等ソーシャルメディアも積極的に用い、多方面に情報提供を行っている (COVID-19のワクチンの開発過程における動物実験を行う意義について説明した図は、英国の多くのメディアでシェアされた)。

特に印象的な試みは、11~18歳を対象に、UARがアンバサダーを学校に派遣し、ワークショップにて学生と“対話”することである。若年層ほど動物実験に抵抗を持っているので、将来を担う若者に正しい情報を隠すことなく提供し、自発的に理解を深めてもらうことが目的である。人は一方的に事実を投げかけられても正しい判断を下すことができないため、学生との共通点や見解の一致点を探ることができる“対話”形式を用いている。年間1万人のペースで、すでに10万人以上の学生と対話を行ってきた。アンバサダーは動物実験の専門家 (研究者、医療関係者、獣医師等) や動物飼育スタッフからなる167名のボランティアである。彼らは、効果的な対話法やプレゼン法の研修を受けた後に学校に派遣される。UARのHPには、学校向けコンテンツの一部が公開されている。学生アンケートの結果、アンバサダーのうち管理獣医師の話が最も信用できるとのことである。また、学生や先生方に動物実験施設見学の機会も設けている。

これらの試みによって、動物実験に関して英国民が入手できる情報は飛躍的に増え、事実を公表しても悪い影響や反発は起きていないこと、施設のHPで情報が豊富に入手できるため情報公開請求件数も減少し、動物実験に関するマスコミのネガティブな報道が大幅に減少したようだ。

本稿ではUARの試みの一部を紹介しましたが、動物実験の社会的理解を得るための情報発信のあり方について、議論のきっかけになっていただければ幸いです。他に先駆けて笠井憲雪先生らが、2018年にUARを訪問され、実験動物動物福祉コミュニケーションのHPにて詳細を報告されているので、是非こちらもご覧ください。

(実験動物動物福祉コミュニケーションのHP, <https://www.lab-awcom.org/welfa030.html#5>)

最後になりますが、本年9月で獣医学会理事長を退任されます久和 茂 先生、獣医学会理事を退任されます安居院 高志 先生、JCLAM会長を退任されます黒澤 努 先生のご尽力とご功績に心から敬意を表しますと共に、厚く御礼を申し上げます。

一日も早いコロナ禍の終息と、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

2021年8月12日

学 会 案 内

(学術集会委員会)

日本獣医学会関連の日程

第164回日本獣医学会学術集会

会 期：2021年9月7日（火）～ 13日（月）

会 場：【Web 開催】

- 日本実験動物医学会（JALAM）総会

日時：2021年9月

場所：会員メーリングリストにより行う。

- JALAM理事会

日時：2021年8月31日（火）14:00～16:00

場所：Zoom会議として実施する。

- JALAM一般演題発表

Web開催として実施する。

- JALAMシンポジウム

「オルガノイド研究の現状と展望」

日時：2021年9月9日（木）9:00～11:00

場所：ライブ配信

座長：佐々木宣哉（北里大学獣医学部）

岡村匡史（国立国際医療研究センター
一研究所）

1. 「iPS細胞からの腎臓再構築と病態解析への応用」

西中村隆一（熊本大学 発生医学研究所）

2. 「肝臓におけるオルガノイド医学の展開」

船田雅昭（武田薬品工業株式会社リサーチT-CiRA ディスカバリー）

- JALAM教育委員会

第164回日本獣医学会学術集会中の対面による委員会を中止。Zoom会議を開催予定。

- JALAM前島賞・功労賞選考委員会

第164回日本獣医学会学術集会終了後の9月第3週にZoom会議を開催。

- 日本実験動物医学専門医協会（JCLAM）
認定試験

日時：2021年9月5日（日）

場所：①酪農学園大学

②ふれあい貸し会議室 町田A
（最寄り町田駅）

③福岡大学

※ 試験会場が変更される可能性があるため、
受験予定の方は十分に確認してください。

- JCLAM総会

日時：後日案内

場所：メーリングリスト開催

- JCLAMフォーラム

「実験動物の取り巻く環境と3Rs」

日時：2021年9月9日（木）13:00～15:00

場所：ライブ配信

座長：寺田節（獨協医科大学）

伊藤麻里子（名古屋大学）

1. 「動物実験を取り巻く状況と実験動物医学専門医」

三好一郎（東北大学・院医・動物実験施設）

2. 「実験動物に対するVeterinary Care」

鈴木真（沖縄科学技術大学院大学）

3. 「実験動物福祉を巡る国内外の情勢」

黒澤努（鹿児島大共同獣医学部）

- JCLAM認定委員会

第164回日本獣医学会学術集会中の対面による委員会を中止。Zoom会議を開催予定。

- **JCLAM試験問題作成委員会**

試験実施当日にWeb又はメーリングリストを介して開催。

- **ウェットハンド研修会**

「II. イヌ・ブタの獣医学的管理」

研修日：2021年9月11日（土）、12日（日）、
26日（日）

場 所：Web開催 + 現地開催*

* 北海道大学獣医学研究院

〒060-0818 札幌市北区北18条西
9丁目

下記のイベント・委員会は中止となりました。

- **JCLAM/JALAM研修委員会**
- **JALAM学術集会委員会**
- **JALAM情報・編集委員会**
- **JALAM法規等検討委員会**

- **JCLAM理事会**
- **JCLAM総務部会**
- **JCLAM試験実施委員会**
- **JCLAM試験問題検討委員会**
- **JCLAM学術委員会**
- **JCLAM国際渉外委員会**
- **JCLAMレジデントプログラム委員会**
- **JCLAM将来検討委員会**
- **JCLAM認定試験WG**
- **JCLAM試験関連委員会合同会議**
- **エクスカーション**

「オルガノイド研究の現状と展望」

日時：2021年9月9日（木）9:00～11:00

場所：ライブ配信

座長：佐々木 宣哉（北里大学獣医学部）、岡村 匡史（国立国際医療研究センター研究所）

1. 「iPS 細胞からの腎臓再構築と病態解析への応用」

西中村 隆一（熊本大学 発生医学研究所）

腎不全による人工透析患者数は33万人、その医療費は年間1.5兆円を超えている。腎臓を作るにはネフロン前駆細胞と尿管芽の二つが必須であり、前者からは糸球体と尿細管が、後者からは集合管・尿管が形成される。我々はネフロン前駆細胞の正しい起源を同定することによって、ヒト iPS 細胞からネフロン前駆細胞を経由して、糸球体および尿細管を誘導できることを報告した (Cell Stem Cell 2014)。ヒト iPS 細胞由来のネフロン前駆細胞をマウスに移植すると、ヒト糸球体がマウス血管と接続し、糸球体上皮（ポドサイト）の成熟が進んだ。これらの技術を応用することによって、先天性ネフローゼ症候群の患者由来 iPS 細胞から腎臓組織を誘導して糸球体の異常を再現できることを報告した (Stem Cell Reports 2018)。さらに、ヒト iPS 細胞から 90%を超える純度でポドサイトを誘導する方法や、ヒト iPS 細胞由来ネフロン前駆細胞の増幅・凍結法も開発した。加えて、もう一つの腎臓前駆組織である尿管芽の誘導法も開発し、これを使って多発性嚢胞腎の病態を再現した (J Am Soc Nephrol 2020)。さらに、分岐する集合管の周囲にネフロンが配置された腎臓本来の構造をマウスでは再構築できた (Cell Stem Cell 2017)。しかしこの過程で、間質前駆細胞という3つ目の前駆細胞が必須であることが判明したため、これを誘導することで高次構造をもったヒト腎臓の作製を目指している。本講演ではこれらの知見をわかりやすく解説するとともに、今後の課題について議論したい。

2. 「肝臓におけるオルガノイド医学の展開」

船田 雅昭（武田薬品工業株式会社リサーチ T-CiRA ディスカバリー）

多能性幹細胞（ES, iPS 細胞）から標的臓器に分化させた細胞や、初代培養細胞などを試験管内で三次元化することによりヒト器官に類似した組織体（オルガノイド）を用いた研究が盛んになっている。生体内に存在する器官と比べて、解剖学的・機能的に一定の類似性を有したヒューマン・オルガノイドを用いることで、これまで研究対象とすることが困難であったヒトにおけるさまざまな生命現象に迫ることが可能となってきた。肝臓は肝実質細胞、クッパー細胞、星細胞、血管内皮細胞、類洞内皮細胞、線維芽細胞などからなる複雑な構造を有している。ヒト肝臓オルガノイドは、複雑かつ多様な細胞種を含む肝臓の構造と機能を再現するため、発生・再生現象や、それらの破綻に基づく病態の理解、さらには創薬・再生医療分野における重要なリソースとして期待されている。

本発表では、われわれが長年取り組んできた iPS 細胞由来ヒト肝臓オルガノイド技術を基盤として、凝固・補体・代謝機能に異常をきたす疾患モデルの構築とその理解を目指す研究の最新動向を紹介する。また、これらを通じ臨床医学への実質的還元を目指すオルガノイド医学研究の進展と課題について議論したい。

日本実験動物医学専門医協会フォーラム抄録

「実験動物の取り巻く環境と3Rs」

日時：2021年9月9日（木）13:00～15:00

場所：ライブ配信

座長：寺田 節（獨協医科大学）、伊藤 麻里子（名古屋大学）

1. 「動物実験を取り巻く状況と実験動物医学専門医」

三好 一郎（東北大学・院医・動物実験施設）

私たちがとり組むべき課題の一つとして、動物実験におけるコンプライアンスがある。動物の愛護及び管理に関する法律の見直しへの対応をはじめ、これまで推進してきた適正な動物実験実施のための機関管理体制の強化に向けて、実験動物管理者教育や外部検証制度推進のための人材育成事業を進めている。一方では、人類・動物の健康と幸福、加えて環境を守るために、適正且つ洗練された飼育環境で維持された実験動物を対象に十分に吟味された適切な実験計画を遂行していることが一般の方々に理解され、安心してその成果を期待されるように、情報の発信に取り組む必要性が高まっている。

日本実験動物医学専門医協会（JCLAM）は、獣医師、専門技術者育成、教育および研究の認証を通して、人類福祉のための生物医学の進展を目指して使用される実験動物の動物愛護と責任ある使用を進めている。また、最近改訂された実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準の解説には、動物実験の機関管理体制の要である実験動物管理者の具体的な適格者の例として 実験動物医学専門医（専門医）が明記されており、実験動物福祉の充実を中心とした 3 Rs の実効を担っている。動物実験施設等の現場では、専門医は、臨床獣医師、あるいは選任獣医師や施設の統轄者として実験動物管理者の機能を果たすことが多い。同時に、機関管理のもう一方の要である動物実験委員会の構成員、特に実験動物に関して優れた識見を有する者として、当該委員会活動の中心的な役割を担当する。動物実験計画の承認を始め、実施状況及び結果の把握とその結果に基づく改善措置、飼養保管施設の整備、並びに飼養保管施設及び実験室の承認、動物実験等に係る安全管理、教育訓練、自己点検・評価、外部検証、情報公開等に関して、審査・調査等によりの確な報告・助言が求められる。特に、研究の目的等を十分に理解した上で、Refinement の観点から適切な苦痛軽減措置がとられるよう指導することが求められる。

JCLAM は、国際実験動物医学専門医協会（IACLAM）の一員とされており、専門医は、国内外の最新且つ正確な情報を収集・提供することが期待される。また、逆に、国際的な貢献や情報発信の最前線に立たされる。大学等では、以前にもまして、国際的且つ適時的に認められた苦痛の軽減や安楽死の方法について専門性の高い指導・助言が求められている。さらに、専門医は、検証員としての主要な要件を備えていることから外部検証・認証での活動も期待される。国際標準を見据えた機関管理体制の強化は、今後益々専門医が取り組むべき重要な課題である。我が国の生命科学・医学研究の発展に、実験動物福祉に基づいたコンプライアンスへの取り組みが重要であることを、実験動物医学の研究・教育を通して浸透させることが専門医の使命と考え、自身に問いつけている。

2. 「実験動物に対する Veterinary Care」

鈴木 真（沖縄科学技術大学院大学）

実験動物の取り巻く環境と 3 Rs というタイトルのシンポジウムに於いて、国外事情について講演する依頼を受けた。3 Rs の Replacement, Reduction, Refinement を頭に浮かべて実験動物の取り巻く環境との組み合わせを考えたところ、何らまとまりがつかず 3 Rs のそれぞれが環境に近づいたり遠ざかったりするだけであった。そこで、環境ではなく国外事情に変えてみると Refinement が国外事情と通して環境と結びついた。しかしながら、実験動物を取り巻く環境と Refinement に絞っても、依然として壮大なテーマであることに思い至り、国内の実験動物学では取り残されがちな話題である Veterinary Care に焦点を当てて海外事情を紹介することで、付与されたテーマに沿うことができると考えた。

Veterinary Care は動物の健康に関わる部分が多く、最良の状態にある実験動物を使用して適切な動物実験を行うことを支援することになる。このため、3 Rs の Replacement や Reduction に比べて Refinement により関連するものである。動物実験に供する動物は生産業者から購入するか、遺伝子組換え動物のようにそれぞれの施設で生産することになる。これらの動物は施設内で実験の時間を待ち、適切な実験手順を経てデータを残したのちに安楽死されることになる。Veterinary Care はこれらの一連のすべてに関わっている。生産施設や自施設での繁殖状況や発育状況、生産施設（繁殖エリア）から飼育エリアへの移動、実験委供するまでの健康管理に、麻酔・鎮痛や安楽死法の選択・実施に至るまでである。

本日は各ステージにおける Veterinary care の海外事情に焦点を当てる。

3. 「実験動物福祉を巡る国内外の情勢」

黒澤 努（鹿児島大共同獣医学部）

実験動物の福祉を考えるうえで重要な問題は、まず実験動物も動物には変わらないので、動物福祉全般についての環境を考える必要がある。さらに実験動物は家畜の中でも最も国際性に富んだ存在である。研究に使われるのであり、その研究成果は論文となって国際的に公開され、またその成果は科学的成果として、物事を判断するときの参考文献として使用される。

動物福祉全体を俯瞰した国際文書としては OIE（世界動物保健機関）が刊行している陸生動物保健綱領が最も権威ある国際標準として使われている。この文書は当初は動物の疾病とりわけ伝染病に関する記述が多かったが、2000 年代になり、動物福祉は動物の健康の一部と考えられるようになり、動物福祉が第 7 章として記述され、各種の動物の中に実験動物が独立して記述されている。

この国際標準文書は毎年更新されて website で公開されているので、動物福祉の最新情報が容易に入手できる。ところが最近明らかにされた贈賄事件では養鶏業者が農林水産大臣に賄賂を提供し、この文書の鶏の福祉に関して、厳格性を緩和するよう要請している。この事件は OIE の文書が実業に影響すると業者が考え、大臣に賄賂を提供するほどに重要な文書であると認識された点が注目される。さらに我が国の動物福祉に関する国際的後進性が明らかとなり、国民の動物福祉への理解が深まったという点が重要である。

この国際文書の動物福祉の考え方には 5 Fs が基本にあり、実験動物福祉ではそれが 3 Rs のうち Refinement に相当することがよく理解できる。OIE 綱領における実験動物福祉の担保では実験動物獣医師の役割が重要とされているのでその内容の理解が必要となる。

またごく最近、実験動物福祉に関する重要な文書が公刊された。一つは米国獣医学会の動物の安楽死指針 2020 年版の邦訳である。この文書は当初実験動物福祉を中心に記載されていたが、

2020 年の改訂で伴侶動物、家畜、魚類などについても詳述されている。また家畜の苦痛軽減に関する総説を世界獣医師会会長の Pat Turner 先生らが公表した。動物の苦痛に関する内外の知見を網羅しており、興味深い。

今回のフォーラムでは日本実験動物学会理事長である三好先生が専門医の使命について、AAALAC International の council メンバーである鈴木先生が veterinary care について詳述されるが、これらはそれらの考え方が国際的文書にも記載されていることから、その詳細を解説していただくことで参加者の関連知識の増加補強に好適である。

JCLAM (JALAM 共催) ウェットハンド研修会報告

「Ⅱ. イヌ・ブタの獣医学的管理」のウェットハンド研修会の第1回目は2021年5月22日（土）、23日（日）、および7月11日（日）に実施しました。

場所はWebおよび北海道大学大学院獣医学研究院でした。

なお、北海道大学での実習は、当初、5月30日に実施予定でしたが、札幌市に緊急事態宣言が発令されていたことから日程を延期して開催しました。

- ◆ 日 程：2021年5月22日（土）9:00～17:00
2021年5月23日（日）9:00～12:00
2021年7月11日（日）9:00～12:00（A班）、14:00～17:00（B班）

- ◆ 場 所：Web（講義・演習）
北海道大学大学院獣医学研究院（実習）
〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目

- ◆ 研修費：30,000円

- ◆ 講 師：

黒澤 努（鹿児島大学共同獣医学部）DVM, Ph.D., DJCLAM
安居院 高志（北海道大学大学院獣医学研究院）DVM, Ph.D., DJCLAM
木村 透（山口大学共同獣医学部）DVM, Ph.D., DJCLAM
高木 久宜（日本 SLC）DVM, Ph.D., DJCLAM
森松 正美（北海道大学大学院獣医学研究院）DVM, Ph.D., DJCLAM
金 尚晃（北海道大学大学院獣医学研究院）DVM, Ph.D.

- ◆ 研修内容：

第1日目〔5月22日（土）〕

9:00～11:35（Zoom）

- ・受講にあたっての注意事項（安居院）10分
- ・研修委員会委員長挨拶（木村）10分
- ・講師、受講者自己紹介 30分

（休憩 15分）

講義

- ・概論Ⅰ（黒澤）45分
- ・概論Ⅱ（安居院）45分

13:00～17:00（Zoom）

講義

- ・イヌ、ブタの麻酔（黒澤）90分

（休憩 15分）

- ・イヌ、ブタの疾病1（内科疾患、感染症）（木村）90分

（休憩 15分）

- ・イヌ、ブタの疾病2（実験動物として特に注意すること）（安居院）30分

イヌ、ブタの疾病 1 では一般的なイヌ、ブタの疾病について、イヌ、ブタの疾病 2 では常同行動、イヌの趾間膿瘍についてその発生原因、予防法について受講した。

第 2 日目〔5 月 23 日（日）〕

9：00～12：00（Zoom）

動物実験計画書審査演習 3 時間

- ・講義 動物実験計画書審査について（安居院）10 分
- ・演習（安居院（総合司会、1 班）、黒澤（2 班）、木村（3 班）、高木（4 班））2 時間 50 分

第 3 日目〔7 月 11 日（日）〕

9：00～12：00（A 班）、14：00～17：00（B 班）

イヌ、ミニブタの吸入麻酔実習（黒澤、金、安居院、森松）各班 3 時間

修了書授与 黒澤会長

解散

◆ 受講者（25名）

JCLAM（JALAM 共催）ウェットハンド研修会案内

次回のウェットハンド研修会は下記のように実習・講義を実施します。

第2回：Web開催 + 現地開催

日程：2021 年 9 月 11 日（土）

2021 年 9 月 12 日（日）

2021 年 9 月 26 日（日）

場所：Web および現地開催*

* 北海道大学獣医学研究院（〒060-0818 札幌市北区北 18 条西 9 丁目）

定員：最大 40 名

申込みは、7 月 26 日（月）午前 10 時から、会員用 HP より申込みを受け付け、締切りは 8 月 8 日（日）としました。募集は終了しました。

参加希望者には、新型コロナウイルス感染症の予防のため、実習直前の PCR 検査をお願いすることといたします。実習当日に発熱、咳、くしゃみ（花粉症を除く）等の症状のある方は受講をご遠慮して頂きます。

受講料：30,000 円

研修内容：

「II. イヌ・ブタの獣医学的管理」

講義：9月11日（土） 9：00～17：00 講義（Zoom）

- ・概論 I
- ・概論 II
- ・イヌ、ブタの麻酔
- ・イヌ、ブタの疾病1
- ・イヌ、ブタの疾病2

演習：9月12日（日） 9：00～12：00 動物実験計画書審査演習（Zoom）

- ・講義 動物実験計画書審査について
- ・各班審査演習、総合討論

実習：9月26日（日） 9：00～12：00（A班）、14：00～17：00（B班）（北海道大）

一班約10名を予定

- ・イヌとブタの吸入麻酔実習

2020-2021年度臨時總會開催報告

日時：2021年5月17日（月）～5月20日（木）

会員メーリングリストを用いた審議とウェブサイトへの投票による承認採決

期間中に97名の会員から投票があり、会員総数（406名）の1/5に達していることから、総会は成立した。

議 事

[1] 2020-2021年度収支予算書の修正

昨年10月に開催されたJALAM総会にて、2020-2021年度収支予算書が承認された。その後、日本獣医学会理事会にて、「日本獣医学会所属研究団体費の申請および交付ならびに報告に関する規程」が変更され、当該年度の5月末日に100万円以上の預貯金を保有している所属研究団体は、事業活動に必要な費用を十分保有していると判断され、所属研究団体費の申請は、原則として認められないことになった。2020-2021年収支予算書は200万円以上の繰越金が出る計画であったため、JALAM理事会にて繰越金を100万円未満とし、かつ、有効に活用するための方策が検討された。その結果、トラブルが散見され、動画配信等に対応できない従来のJALAMホームページシステムを終了し、外部発信用および会員管理システム用ホームページを新たに作成する案にまとまった。即ち、新しいホームページの作成費、サーバアカウント使用費、そして事務局管理用パソコンの購入費として使用することで、繰越金を100万円未満に減らす2020-2021年度収支予算書の修正案が、理事会より提案された。

審議の期間中、北海道大学の安居院会員より、変更された規程は2021年8月1日から施行されるので、来年度予算案に新ホームページの作成費等を盛り込み、2021年9月の通常総会で承認を受ければ良いのではないかという意見が出た。池副会長、角田会計担当理事から、獣医学会全体の余剰金の負担を1年でも早く解消することに協力したい旨、ホームページの整備は会員の利便性を高めることになり、早急な整備が会員のためになるとの判断から、臨時総会を開催することになった経緯が説明され、安居院会員に納得頂いた。

投票の結果、理事会提案通り、2020-2021年度収支予算書の修正は承認された。

以上

2021-2022年度総会開催案内

2021-2022 年度総会は、第 164 回日本獣医学会学術集会（酪農学園大学）において開催される予定でしたが、学術集会の現地開催が中止されたことを受け、2021 年 9 月に会員メーリングリストにより行います。次号（No. 58）で報告いたします。

日本実験動物医学会 2020-2021～2022-2023 年度役員会および委員会

<理事・監事>

会長（渉外担当理事兼任）	佐々木 宣哉	（北里大学）
副会長	池 郁生	（理化学研究所）
理事（会計・事務局担当）	角田 茂	（東京大学）
理事	大沢 一貴	（長崎大学）
理事（庶務担当）	岡村 匡史	（国際医療センター）
理事	鈴木 穂高	（茨城大学）
理事（庶務担当）	古市 達哉	（岩手大学）
理事	森松 正美	（北海道大学）
理事	横須賀 誠	（日本獣医生命科学大学）
監事	安居院 高志	（北海道大学）
監事	橋本 道子	（アステラス製薬）

<各種委員会委員長>

学術集会委員会	岡村 匡史	（国際医療センター）
研修委員会	森松 正美	（北海道大学）
実験動物学教育委員会	横須賀 誠	（日本獣医生命科学大学）
情報・編集委員会	鈴木 穂高	（茨城大学）
前島賞選考委員会	古市 達哉	（岩手大学）
実験動物法規等検討委員会	大沢 一貴	（長崎大学）

理事会報告

2020-2021 年度臨時理事会議事録

日 時：2020 年 10 月 2 日（金）9:18～13:55

場 所：ML によるオンライン会議

出席者：安居院、池、久和、佐々木、角田、下田、鈴木、古市、森松（以上理事）、
黒澤、橋本（監事）

議題

1. 前島賞受賞者の決定について

池 前島賞・功労賞選考委員会委員長より選考委員会での審議結果が報告され、下記の通り受賞者を決定した。

高橋 悠記 会員（北里大学）

受賞課題

「腎近位尿細管上皮細胞における新規腎症増悪因子の解析」

2. 表彰について

第 164 回日本獣医学会総会における日本実験動物医学会総会で行う予定であるが、総会開催については流動的であり、実施については次期委員会ならびに新理事会で審議する。

3. その他

一連の成果を数名の演者が分担する発表にそれぞれ同じ点数を付する採点は、候補者選考への影響が大きい。そのような場合でも同点を付けない配慮を次期委員会への申し送りとした
いとの要望が池委員長からあった。

以上

2020-2021 年度第 2 回理事会議事録

日 時：2021 年 5 月 11 日～14 日

場 所：理事会メーリングリストを用いた会議

出席者：佐々木、池、大沢、岡村、角田、鈴木、古市、森松、横須賀（以上理事）、
安居院、橋本（監事）

議 事

[1] 2020-2021 年度収支予算書の修正

昨年 10 月に開催された JALAM 総会にて、2020-2021 年度収支予算書が承認された。その後、日本獣医学会理事会にて、「日本獣医学会所属研究団体費の申請および交付ならびに報告に関する規程」が変更され、当該年度の 5 月末日に 100 万円以上の預貯金を保有している所属研究団体は、事業活動に必要な費用を十分保有していると判断され、所属研究団体費の申請は、原則として認められないことになった。2020-2021 年収支予算書は 200 万円以上の繰越金が出る計画であったため、繰越金を 100 万円未満とし、かつ、有効に活用するための方策を検討した。その結果、トラブルが散見され、動画配信等に対応できない従来の JALAM ホームページシステムを終了し、外部発信用および会員管理システム用ホームページを新たに作成する案にまとまった。即ち、新しいホームページの作成費、サーバアカウント使用費、そして事務局管理用パソコンの購入費として使用することで、繰越金を 100 万円未満に減らす 2020-2021 年度収支予算書の修正案を提案した。この修正案はメーリングリストを利用して実施される臨時総会へ諮ることにした。

[2] 2020-2022 年度収支予算書 (案) の承認

角田会計担当理事より、2021-2022 度所属研究団体収支予算書 (案) が提示され、承認された。

以上

委員会報告

1. 実験動物学教育委員会

委員長：横須賀 誠（日獣大）

委員：浅野 淳（副委員長、鹿児島大）、安居院高志（北大）、伊豆弥生（岡山理科大）、越後谷裕介（日大）、大杉剛生（酪農大）、岡田利也（大阪府大）、角田 茂（東大）、木村 透（山口大）、久和 茂（東大）、佐々木宣哉（北里大）、佐々木隼人（北里大）、佐藤雪太（日大）、竹内崇師（鳥取大）、田中あかね（東京農工大）、塚本篤士（麻布大）、富岡幸子（鳥取大）、中村紳一朗（麻布大）、古市達哉（岩手大）、森松正美（北大）

- (1) 実験動物学教育委員会メーリングリストを利用して、講義・実習に関する意見交換を行った。また、実験動物学コアカリキュラム教科書第2版の落丁・修正箇所の情報共有を行った。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、第164回日本獣医学会学術集会はWEB開催になったことから、学会開催期間中に行っていた対面による委員会は中止とする。代わりにZoomによるWEB開催に変更することにした。
- (3) 令和2年9月に環境省と文部科学省から要請された「獣医大学における生体を利用した実習での動物の取扱いに関する調査」の調査結果に関連して、参議院・環境委員会（2021年6月8日）で質問が出されたことと、その模様が参議院インターネットで確認出来る旨を実験動物学教育委員会メーリングリストを利用して情報共有した。

2. 学術集会委員会

委員長：岡村匡史（国際医療研究センター）

委員：小久保年章（副委員長、放医研）、越後谷裕介（日大）、新美君枝（理研）、兼平雅彦（山梨大）、嶋田圭祐（阪大）、中野堅太（国立国際医療研究センター）、大沼健太（日本たばこ産業）、齋藤直之（大塚製薬）

- (1) 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、日本実験動物学会総会にて開催を予定していた実験動物医学シンポジウムを中止した。
- (2) 第164回日本獣医学会学術集会にて開催するJALAMシンポジウムを企画した。
- (3) 本委員会は一般公開用HPを担当することとなり、制作を進めている。

3. 情報・編集委員会

委員長：鈴木穂高（茨城大）

委員：伊藤麻里子（副委員長、名古屋大）、綾部信哉（理研）、近藤友宏（大阪府大）、長沼佑季（アステラス製薬）、廣瀬直毅（京大）、和颯 岳（ヤクルト）

- (1) JALAM NEWS LETTER「実験動物医学」No.56(2021.4)を編集し、本学会ホームページ（HP）に掲載した。
- (2) 本学会HPを改訂し内容を随時更新した。
- (3) JALAM-ML (jalam@umin.ac.jp) および会員HP (<http://jalam.jp/htdocs/>) を管理運営した。

- (4) 本学会 HP を更新するにあたり、会員用 HP と一般公開用 HP に分割することになった。本委員会は会員用 HP を担当することとなり、移行作業を進めている。

4. 研修委員会

委員長：森松正美（北大）

委員：中村紳一郎（副委員長、麻布大）、浅野 淳（鹿児島大）、兼平雅彦（山梨大）、倉岡睦季（日獣大）、今野兼次郎（ボゾリサーチセンター）、佐々木隼人（北里大）、高木久宜（日本エスエルシー）、武井信貴子（イナリサーチ）、林元展人（実中研）

- (1) 2020 年 12 月 3 日にオンライン会議を開催し、本委員会の事業計画に関する審議等を行なった。
- (2) 第 68 回日本実験動物学会総会及び第 164 回日本獣医学会学術集会に合わせてウェットハンド研修会の開催が予定されていた。5 月 22-23 日の講義と演習はコロナ禍の影響でオンラインだったが、7 月 11 日の実技は対面により北大で開催された。9 月の研修も同様にオンラインと対面で開催予定。

5. 前島賞選考委員会

委員長：古市達哉（岩手大）

委員：加藤啓子（副委員長、京都産業大）岡田利也（大阪府立大）、今野兼次郎（ボゾリサーチセンター）、藤平篤志（日獣大）、富岡幸子（鳥取大学）、三好一郎（東北大）、山中仁木（信州大）

- (1) 前島賞選考委員会を 2020 年 10 月 1 日に Zoom によるオンラインで開催し、下記会員を候補者として選出し、会長に報告した。2020 年 10 月 2 日に開催された臨時理事会にて、同候補者が受賞者として決定された。

受賞者：高橋悠記 会員（北里大学）

研究課題：「腎近位尿管上皮細胞における新規腎症増悪因子の解析」

- (2) 獣医学会では分科会毎で行なっていた表彰事業に対して統一した表彰規定を作ることになった。統一される表彰規定に対する JALAM の意見・要望をまとめるよう会長から指示があり、前島賞選考委員会にて原案を作成し、会長へ提出した。

- (3) 2021 年 9 月 14 日（火）以降に Zoom 会議等として委員会を開催予定。

6. 実験動物法規等検討委員会

委員長：大沢一貴（長崎大）

委員：下田耕治（副委員長、慶應義塾大）、笠井憲雪（東北大）、黒木宏二（日本たばこ産業）、武井信貴子（イナリサーチ）

- (1) 実験動物関係の組織・委員会活動について情報を収集し、メール会議を行った。

日本実験動物医学専門医協会 (JCLAM/IACLAM)

1. JCLAMからの挨拶

日本実験動物医学専門医協会

会長 黒澤 努

前号のニュースレターで JCLAM 会長退任の挨拶をしたつもりであったが、今号にも挨拶が必要とのことで、さらに老害をぶち撒けるのではないかと懸念しながら、最後の挨拶文をしたためることとする。

JCLAM では本年、理事の選挙が行われ、選挙管理委員会から当選理事候補者の一覧が理事会内で回覧された。正式には次の総会にて承認される予定であるが、いずれもお若い方々が名を連ね、JCLAM 執行部も相当な若返りを図れることとなっている。

獣医学における専門医制度は実験動物医学以外にも存在するが、近年日本獣医師会内に専門医制度の充実を求める声が高まり、検討組織が発足した模様である。仄聞するところによると、日本獣医師会はその国際活動の多くをアジア各国との協調にふり向けているようだが、その中でもアジア獣医師連盟内に専門医制度を立ち上げたいとの意見があり、検討が始まっている模様である。そこではまず各国で専門医制度を立ち上げ、その連合体としての制度を目指している模様である。実際の活動としては日本獣医師会の現会長である蔵内先生は次期アジア獣医師連盟の会長になることが決まっていて、さらに次回は福岡にてアジア獣医師連盟の総会を開催することを予定している。

実験動物医学は他の我が国の獣医学各分野に先んじて、専門医制度を立ち上げ、そのうえで国際的な協調を米国、欧州そして韓国と IACLAM の活動として行ってきた。強調したいのはこの国際実験動物医学専門医協会の創立メンバーである点である。わが国では獣医臨床の先生方を中心としてアジア獣医師連盟下に専門医制度を確立しようと現在も活動が続けられていらっしゃる努力に、かつて自分たちの努力が重なってしまっているようで感慨深い。しかし、IACLAM もインドが正式会員となり、さらにフィリッピンが準会員となったことからすでに日本、韓国、インドそしてフィリッピンの 4 か国がアジアからの会員であり、アジア獣医師連盟との協調もやがては考える必要がある。それ以前にも日本獣医師会との協調も必要となっている。獣医学会はすでに日本獣医師会と協力する活動をおこなっているのだから、JALAM も積極的に日本獣医師会と接触してはいかがだろうか？当然 JCLAM は IACLAM の活動内で他のアジアの専門医協会と接触をもち、協調体制を構築していくことが重要である。

少しの懸念は JCLAM の会員は JALAM の会員でなければならず、日本獣医学会の会員である。しかし、日本獣医師会の会員はどれほどいるのかの調査は今のところ行われていない。とくに他の協会等と協調するために全員がその会員となる必要はないかもしれないが、まったく相互交流が会員を通じて行われないのは不自然である。たとえば JCLAM 自体が日本獣医師会の何らかのかたちで専門医会員として登録する（日本獣医師会は地方獣医師会の連合体である）などを模索してみてもはどうだろうか？

米国には ACLAM という獣医師の専門医による会があるが、それ以外に ASLAP という実験動物獣医師の会が米国獣医学会内にある。この両者は現在種々の分野で協力し合っているが、そうした制度もよく研究してみる必要がある。

いずれにせよ実験動物獣医師をとりまく環境も国内的にも国際的にも大きく動いているように感ぜられる。新型コロナウイルス禍で学会活動等は著しく停滞していて、とくに海外との交流などはほとんどなくなっているようにも思われるが、水面下ではインターネットを駆使した国際会議はこれまで以上に活発に行われていて、この災禍が収まったのちの国際学協会との協調はいまからすでに準備がはじまっているのかもしれない。

幸いなことに JCLAM では専門医の認定活動を一年凍結したが、その間にも更新認定、新規認定の活動は続いていた。その中でもすでに JCLAM が他の IACLAM 会員の専門医を申請があれば認定作業を行うとしていた制度に ACLAM からの申請があり、認定委員会からその申請を認めたと理事会に報告されている。

こうして、次のリーダーたちによる JALAM および JCLAM のますますの国内だけでなく国際活動の発展を祈念して、JCLAM からの挨拶を締めくくりたい。

2. 2021-2022年度総会開催案内

2021-2022 年度総会は、第 164 回日本獣医学会学術集会（酪農学園大学）において開催の予定でしたが、学術集会の現地開催が中止されたことを受け、メーリングリスト開催とします。開催方法については、理事会で決定のうえ別途お知らせいたします。

3. 理事会報告

日 時：令和 3 年 5 月 17 日（月）9：30-11：35

場 所：on-line (Zoom) 開催

出席者：【理事】黒澤、安居院、池田、伊藤、木村、黒木、佐々木、鈴木（真）、鈴木（智）、高橋、花井

【監事】笠井、佐藤

1. 翻訳本（AVMA Guidelines for the Euthanasia of Animals: 2020 Edition）の出版について

黒澤会長から、AVMA の安楽死ガイドラインの日本語訳出版について以下の説明があり、理事会で議論した。

- ・ AVMA から翻訳出版の許可をもらった。
- ・ 実験動物業界だけではなく獣医全般でも重要だが、原文で読む人は少ない。翻訳は、2 名の先生（鈴木（真）・黒澤）で行った。
- ・ 電子版のみではなく、本としても出版を考えている。翻訳本の出版経費として最大 50 万円位必要であり、JCLAM で費用を負担してもらいたい。ただし、本が売れたら、負担した経費は還元が可能だと考えている。
- ・ ドラフト版の電子ファイルを JCLAM 会員 HP で公開し、数名から意見をいただいた。
- ・ JALAM からは、JALAM 会員に無料公開するのであれば翻訳代として経費計上は可能とされている。金額は要相談。

議論の結果、以下を決定した。

- JCLAM から資金を提供することは承認する、
- 電子版の無料公開を広く行くと購入者がいなくなると考えられ、無料公開は JCLAM 会員のみを考える。
- JCLAM から資金を提供するので、出版元は JCLAM とし、背表紙に JCLAM と記載する。また、謝辞に JCLAM への謝意を記載する。
- 50 万円の必要経費に関して内訳の詳細を、後日メーリングリスト等にて報告する。
- 著作権や本が売れた時の利益については、筆者で意見の相違がないよう摺り合わせる。

2. 5月に実施予定のウェットハンド研修会について

研修委員長の木村先生から以下の説明があり、審議を行った。

- ・ 座学：5 月 22-23 日（土日）、実技：5 月 30 日（日）に実施予定としていたが、COVID-19 の第 4 波により「札幌市が緊急事態宣言発令中」であることから、実技実施日を延期したい。具体的には、6 月下旬から 7 月上旬の実技実施を考えている。
- ・ 受講生は 25 名。9 月に実施する専門医試験の受験を考えている受講生は、4 名。資格更新予定者はいない。
- ・ 専門医試験申請の締切は、5 月末となっている。受験資格の単位は不足となるが、9 月の試験までには受講する予定のため、受験資格（仮）として認めて欲しい。
- ・ 但し、自己都合で、9 月までに受講できなかった場合には受験資格なしとする。

- ・JCLAM 側の都合で、9 月までに実施できなかった場合にも、受験資格はないが、その場合には、再度、理事会にて相談する。

審議の結論は以下のとおり。

- 新会員を持続的にえるためフレキシブルな対応が必要であり、実技実施日の延期を提案通り認める。

3. 専門医試験実施について

試験実施委員長の池田先生から、以下のとおり提案がなされ、承認された。

- ・専門医認定試験は、9 月の獣医学会で実施予定であるが、5 月 27 日（木）に現地開催か web 開催にするかを学会事務局が決定することになっており、状況を待っている。
- ・受験申請が 5 月末締切のため、現時点では受験者の情報は未定。
- ・学会の開催予定、受験者の情報がわかり次第、理事会のメーリングリストで相談する。

4. レジデントプログラム（案）について

レジデントプログラム委員長の安居院先生からレジデントプログラム案について以下のとおり説明があり、審議を行った。

- ・専門医受験資格を変更し、3 種類の動物種（Ⅰ 齧歯類・ウサギ、Ⅱ イヌ・ブタ、Ⅲ サル類）全てについてレジデントプログラム参加もしくはウェットハンド研修受講により学ばなければならないこととする。
- ・JCLAM 認定機関として認定された機関によるレジデントプログラムに基づき実施する。JCLAM 認定機関は、希望する機関から指定のフォームで申請されたレジデントプログラムの内容を審査の上で認定する。
- ・申請する動物種は、上記 3 種類のいずれかでよく、全種類でなくてよい。また、常時保管・飼育されている必要はなく、個体数も問わない。
- ・認定機関の認定については、審査料・認定料とも無料とする。
- ・プログラムに参加するレジデントが当該機関で指定されていない動物種についてウェットハンド研修会を受講することで補うことを可能とする。あるいは、他の機関にて、不足している動物種の研修を補う受講も可とする。
- ・レジデントプログラムは 1 年とする。レジデントは、毎日プログラムに参加しなくてもよい。
- ・2021 年 9 月の総会で承認されれば 2021-2022 年度から開始する。

審議の結果、以下のとおり決定した。

- 「サル類について、マカクとコモンマーモセットでは生態等も違うので、同じに扱ってよいか、より一般的な実験動物であるマカク類に統一すべきではないか」との意見があり、レジデントプログラム委員会で検討して理事会に再上程することとした。
- 「レジデントプログラム認定機関の飼育個体数、飼育（のべ）日数に関して、最低数の規定を入れるべきではないか」との意見があり、レジデントプログラム委員会で検討して理事会に再上程することとした。
- 認定機関でのレジデントプログラム参加費用は当該機関が独自に決めて良い。

5. IACLAMの活動について

国際渉外委員会からとして、花井先生が以下の報告を行った。

- ・IACLAM の mission/vision として「世界の LAM の Common Platform となる：世界の CLAM を応援し、IACLAM メンバーを増加させる」を定めた。
- ・5年後のあるべき姿を上記 mission/vision に込め、Strategic Plan を作成した。
- ・Strategic Plan に基づき、具体的な以下の活動を開始した。
 - ✓ NPO法人化を目指す：日英米の法人化規則等を比較検討し、米国に法人登録を行うこととした。デラウェア州を候補とした。
 - ✓ Full membership/Associate membership の定義づけを行い、認定規定を策定した。また、インド（ICLAM）をIACLAM Full メンバーとして承認し、フィリピン（PCLAM）をIACLAM Associate メンバーに認定した。
 - ✓ タスクフォースとして、各専門医協会のトレーニングのハーモナイゼーションを目指し、今回は各専門医協会のRDD（role delineation document）をIACLAMのHPとリンクした。
 - ✓ IACLAMのHPサーバーは、これまでACLAMメンバーの個人的な好意により某大学のサーバーを使用させてもらっていたが、それもできなくなるため商業的サーバーに移管することを計画し、候補を定めて検討を開始した。

6. その他

総務部の花井先生から、理事会選挙およびHPサーバーの変更について報告があった。

4. 2021-2022年度JCLAM専門医認定審査・専門医資格更新スケジュール

（１）2021-2022 年度 JCLAM 専門医認定審査・専門医資格更新スケジュール

筆記試験	2021 年 9 月 5 日（日）	北海道会場（酪農学園大学） 関東会場（ふれあい貸し会議室 町田） 九州会場（福岡大学）
合格発表	2021 年 11 月 8 日（月）	
認定料振込期限	2021 年 11 月 19 日（金）	
認定日	2021 年 12 月 25 日（土）	

当初の予定では、筆記試験は獣医学会が開催される酪農学園大学 1 カ所で 9 月 6 日（月）に実施することとしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で獣医学会がウェブ開催となったことから、試験会場を分散させ実施日も変更した。

（２）2022-2023 年度 JCLAM 専門医認定審査・専門医資格更新スケジュール

1) 対象者

1-1) 専門医の認定試験を初めて受験する方：

新規の審査申請条件として、日本実験動物医学会（JALAM）の会員歴が 3 年以上であり、JCLAM 認定規則に規定された基準を満たしていることが求められる。会員歴の年数は JALAM の年度（8 月 1 日から 7 月 31 日）で計算するため、2020 年 7 月末日（2019-2020 年度）までに JALAM 会員になり、2021-2022 年度分まで会費を納めている必要がある。

1-2) 専門医認定資格の更新対象者：

- | | | |
|-----------------|----|-----------------------|
| 第 4 回（2001 年度） | 認定 | 認定番号第 059, 061 号（2 名） |
| 第 9 回（2006 年度） | 認定 | 認定番号第 067～069 号（3 名） |
| 第 14 回（2011 年度） | 認定 | 認定番号第 086～094 号（9 名） |

第 19 回（2016-17 年度） 認定 認定番号第 135～143 号（9 名）
5 年以内に更新しなかった方 認定番号第 126 号（1 名）

2) スケジュール

審査申請書受付開始	2022 年 4 月を予定
筆記試験	2022 年 9 月に日本獣医学会会場（麻布大学）を予定
認定日	2022 年 12 月を予定

スケジュールの詳細は、2021-2022 年度 JCLAM 総会にて決定する。

5. IACLAM

JCLAM委員会報告 8. 国際渉外委員会の活動報告をご参照ください。

JCLAM委員会報告

1. 総務部

部長：花井幸次（島根大）

部員：桐原由美子（島根大）、大沼健太（日本たばこ産業）、小川祥司（大日本住友製薬）、
武井信貴子（イナリサーチ）、浅野 淳（鹿児島大）、近藤友宏（大阪府大）、内山裕貴（BIKEN）

1) 部会開催

- ・情報交換、議論はメーリングリストを用いて行い、面前での会議は行わなかった。

2) 活動報告

- ・HP、会員ページ及びJCLAM関連のメーリングリストの維持・更新を継続して実施した。
- ・専門医認定のための書類審査に関し、申請者の窓口として庶務を行った。
- ・2020-2021年度 JCLAM会計決算を行い、監事に監査を要請した。
- ・第165 回日本獣医学会学術集会における非所属研究団体集会申請書を提出した。

2. 認定委員会

委員長：鈴木 真（沖縄科学技術大学院大）

委 員：岡村匡史（副委員長、国立国際医療研究センター）、中井伸子、三好一郎（東北大）、
横山政幸（武田薬品工業）、伊藤麻里子（名古屋大）、浅岡由次（塩野義製薬）

1) 委員会開催

- ・2021年8月2日、9:00 - 10:30 に Zoom 開催した；1) 申請書について、5年間の実務経験：具体的な記述を求める、科学論文：レビューを受けたことの証を求める、第二分野：判定しやすくするために、ポイントが獲得できる学会を明示する、2) 令和5-6年度（2023-2024年度）の更新時から必須項目として審査対象となる協会への貢献について、専門医への徹底を図ることが必要であること、更新申請書に記載項目として設けること、不足の場合の対応などについて討議した。
- ・第164回日本獣医学会学術集会開催中に委員会を開催する予定であったが、Web開催のため中止となった。次年度の委員会への引継ぎのため、Zoom会議を開催する予定。

2) 活動報告

- ・2021-2022年度実験動物医学専門医の認定：令和3年5月31日までに提出された実験動物医学専門医審査申請書の資格審査を行った。本年度は12名の新規申請者を9月に実施される認定試験の受験資格ありとした。また、11名の資格更新者を更新資格ありとした。加えて、DACLAMからの申請者1名の資格審査を行い、認定条件に達しているとした。なお、申請のあった専門医の3名を生涯実験動物医学専門医と認定した。

3) 実験動物医学専門医資格認定単位対象プログラム

I. JCLAM フォーラム

日時：2021年9月9日（木）13:00～15:00

会場：ライブ配信

テーマ：「実験動物の取り巻く環境と3Rs」

座長：寺田 節（獨協医科大学）、伊藤 麻里子（名古屋大学）

1. 動物実験を取り巻く状況と実験動物医学専門医

○三好 一郎（東北大学・院医・動物実験施設）

2. 実験動物に対するVeterinary Care

○鈴木 真（沖縄科学技術大学院大学）

3. 実験動物福祉を巡る国内外の情勢

○黒澤 努（鹿児島大共同獣医学部）

〈認定単位〉：ライブ配信のため理事会で確認中

- ・新規申請者：必須分野で申請する場合 10単位
選択分野で申請する場合 5単位
- ・更新申請者：第一分野で申請する場合 10単位
(第二分野では申請出来ません)

II. JALAM シンポジウム

日時：2021年9月9日（木）9:00～11:00

会場：ライブ配信

テーマ：「オルガノイド研究の現状と展望」

座長：佐々木宣哉（北里大学獣医学部）、岡村匡史（国立国際医療研究センター研究所）

1. iPS細胞からの腎臓再構築と病態解析への応用

○西中村 隆一（熊本大学 発生医学研究所）

2. 肝臓におけるオルガノイド医学の展開

○船田 雅昭（武田薬品工業株式会社リサーチT-CiRA ディスカバリー）

〈認定単位〉：ライブ配信のため理事会で確認中

- ・新規申請者：必須分野で申請する場合 10単位
選択分野で申請する場合 5単位
- ・更新申請者：第一分野で申請する場合 10単位
(第二分野では申請出来ません)

III. ウェットハンド研修会

「II. イヌ・ブタの獣医学的管理」

日時：2021年9月11日（土）、9月12日（日）、9月25日（土）、9月26日（日）

場所：北海道大学（〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目）

〈認定単位〉

- ・新規申請者：必須分野の場合Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの3つから重複しない2つの受講が必須であり
併せて20単位
選択分野として再受講の場合は20単位/回
- ・更新申請者：第一分野として20単位
(第二分野では申請出来ません)

3. 試験問題作成委員会

委員長：鈴木 智（大鵬薬品工業）

委員：高橋 研（上席副委員長、残留農薬研）、瀬戸山健太郎（副委員長、鹿児島大）、石坂智路（第一三共）、小川祥司（大日本住友製薬）、倉谷沙綾（オリンパス）、嶋田圭祐（大阪大）、鳥越大輔（熊本大）、中村紳一郎（麻布大）、原田伸彦（東北大）、廣瀬直毅（京都大）、富宿誠吾（防衛医大）、山中仁木（アドバイザー、信州大）、古市達哉（アドバイザー、岩手大）

1) 委員会開催

- ・日本実験動物学会総会のWeb開催に併せて、JCLAM 試験問題作成委員会を2021年5月14日（金）13:00～15:00 にWebにて開催。
- ・JCLAM 試験問題作成委員会については、試験実施当日に答案採点のため開催するが、コロナ禍に伴う試験実施方法の変更に伴い、Web又はメーリングリストを介しての開催を予定している（2021年 9月）。

2) 活動報告

- ・コロナ禍の背景から今期は前期委員会体制を継続してスタートした。
- ・2021年1月に試験問題公募要項の参考図書一覧改定を実施、2月1日付で各専門医に問題作成の依頼を行った。
- ・公募及び委員作成による候補問題について各委員にて確認作業を実施し、提出された修正コメントへの対応について2021年5月14日（金）に開催した試験問題作成委員会にて協議した。
- ・現在、最終の試験候補問題の修正・編集作業中であり、2021年8月末を目途に完成を予定している。試験問題冊子は印刷後、試験実施委員会又は各試験会場の試験実施責任者に郵送予定である。

4. 試験実施委員会

委員長：池田たま子（新潟県保健環境科学研究所）

委員：伊藤拓也（旭川医大）、大杉剛生（酪農学園大）、土佐紀子（北海道大）、中村紳一郎（麻布大）、田中聖一（福岡大）、高橋英機（九州大）

1) 活動状況

- ・COVID-19の蔓延により、本年度も日本獣医学会はweb開催となった。例年、日本獣医学会に併せて開催されていた実験動物医学専門医認定試験は、理事会の承認を経て、地方分散開催に変更した。開催時期がCOVID-19感染流行（第5波）と重なり、開催場所の選定には苦労した。
- ・最終的には、本年度の実験動物医学専門医認定試験は、2021年9月5日（日）、会場は、①酪農学園大学、②ふれあい貸し会議室 町田A（最寄り町田駅）、③福岡大学の3カ所にて実施することに決定した。また、専門医認定試験受験者13名に対し、8月下旬に、受験実施に対する注意事項と会場案内をメールにて送付する。

5. 試験問題検討委員会

委員長：黒木宏二（日本たばこ産業）

委員：森松正美（北海道大）、佐々木一益（秋田県立循環器・脳脊髄センター）、竹内崇師（鳥取大）、奥村 浩（協和発酵キリン）、和田 聡（アステラス製薬）、高木善市（日本エスエルシー）、渡邊 厚（旭化成メディカル）

1) 委員会開催

- ・必要に応じて、メール等にて行う予定である。

2) 活動報告

- ・2020年の認定試験は中止だったため、同期間は関連する活動なし。
- ・2021年9月実施予定の認定試験問題の内容を検討する。

6. 学術委員会

委員長：伊藤麻里子（名古屋大）

委員：大和田一雄（岡山理科大）、佐々木宣哉（北里大）、加納 聖（山口大）、寺田 節（独協医大）、鳥越大輔（熊本大）

1) 委員会開催

- ・今年度も委員会についてメールで開催した。

2) 活動報告

- ・第164回日本獣医学会学術集会にてJCLAMフォーラムを開催企画した。
「実験動物の取り巻く環境と3Rs」

座長：獨協医科大学 寺田 節、名古屋大学 伊藤 麻里子

1. 「動物実験を取り巻く状況と実験動物医学専門医」

三好 一郎（東北大学・院医・動物実験施設）

2. 「実験動物に対する Veterinary Care」

鈴木 真（沖縄科学技術大学院大学）

3. 「実験動物福祉を巡る国内外の情勢」

黒澤 努（鹿児島大共同獣医学部）

7. 研修委員会

委員長：木村 透（山口大）

委員：高木久宜（副委員長、浜松医大）、安居院高志（北海道大）、和田 聡（アステラス製薬）、今野兼次郎（ボゾリサーチセンター）、林元展人（実中研）、桐原由美子（島根大）、伊藤 格（日本バイオリサーチセンター）

1) 委員会開催

- ・メールでの審議、検討を中心に行った。

2) 活動報告

- ・2021 年度は「Ⅱ. イヌ・ブタの獣医学的管理」実施方式を見直し、on-line 方式を取り入れた。2021 年度第一回研修会は講義、演習は Web 開催、実習は現地開催とし、第二回研修会も同様の方式とした。

第 1 回：Web 開催 + 現地開催（北海道大学）

開催日時：2021 年 5 月 22 日（土）、5 月 23 日（日）、7 月 11 日（日）

「Ⅱ. イヌ・ブタの獣医学的管理」

なお、北海道大学での実習は、当初、5月30日に実施予定だったが、札幌市に緊急事態宣言が発令されていたことから日程を変更して実施した。

第 2 回研修会は 2021 年 7 月 26 日（月）午前 10 時から受講募集を行った。

- ・2022 年度は「Ⅲ.サル類の獣医学的管理」の研修を進める。開催は 5 月および 9 月を予定し、開催地、開催方法、人員などを改めて決める。

8. 国際渉外委員会

委員長：黒澤 努（鹿児島大）

委員：花井幸次（島根大）、矢野一男（日本メドトロニック）、武井信貴子（イナリサーチ）、
宮田桂司（獣医系大学間獣医学教育支援機構）、王 振吉（生理研）、
内橋真悠（日本メドトロニック）

1) 委員会開催

- ・必要な連絡等はメーリングリストを用いて行い、委員会は開催しなかった。

2) 活動報告

① IACLAM

- ・矢野、武井、花井の3名の先生は、IACLAMの理事としてIACLAMの活動に参加した。矢野先生は事務長の任につきIACLAMの活動を統括している。
- ・現在の各協会の専門医数は、JCLAM 138、ACLAM 1075 名、ECLAM 70 名、KCLAM 50 名で、ICLAM（インド）は創立認定獣医師として認定作業を実施中である。
- ・IACLAMのStrategic Planに則り、以下の活動を実施している。
 - IACLAM 組織力の向上
NPO 組織として米国デラウェア州に登録することとし、申請書類を準備中。
IACLAMの組織として常任委員会の設置を検討することとなった。
 - 実験動物獣医師の資質の向上と、それによる動物の福祉への一層の貢献
実験動物専門獣医師が有すべき知識や技術についての論文の投稿準備を行った。
 - IACLAMのHPの更新
HPの内容や表示について検討するタスクフォースを立ち上げ、各専門医協会からメンバーを任命した。
HPを置くサーバーやプロバイダーのサービス内容とコストについて比較を行った。検討を継続する。

② AAALAC International

- ・JCLAMはAAALACのMember Organizationであり、花井先生がMember Organization Delegateとして参加している。
- ・Member Organizationに希望する組織の審査を行った。

- ・9月にAAALACの総会（Business Meeting）があり、その際にMember OrganizationのDelegatesがAAALACについて学ぶ機会としてTown Hall Meetingを行っている。そのTown Hall Meetingの開催委員としてテーマの選択等に関った。

③ 情報の共有

- ・IACLAM（WVAを含む）およびAAALACを通して得られた動物実験、実験動物に関連する情報を会員と共有した。

④ WVA

- ・黒澤先生は、JCLAM国際渉外委員会、JCLAM理事会、そしてIACLAM理事会の推薦を受け、WVAの理事選挙に立候補し、現在理事を務めている。理事会では常置委員会がいくつかあるがそのうちOne Health委員会とPolicy委員会に所属し、WVA全般の業務を担っている。
- ・これまでこれらの委員会ではJALAMならびにJCLAMに深く関係する事象はなかったのでこのニュースレターにおいては積極的には発言していなかった。しかし、この度WVAに臨時の実験動物福祉に関する委員会が設置され、その活動に参加することとなった。ご承知の通り、WVA現会長はPat Turner 先生で、彼女は実験動物医学専門医であり、当初の理事選挙ならびに会長選挙ではIACLAMの推薦を受けて当選していることから、彼女の在任中にこうした活動が行われることはあらかじめ予想できた。
- ・これまでWVAでは動物福祉常置委員会が活発に活動を続けその活動の中から、“Pain Management in Farm Animals: Focus on Cattle, Sheep and Pigs” Steagall, P.V. et al. *Animals* 2021, 11, 1483. <https://doi.org/10.3390/ani11061483> が出版された。このreview論文ではブタの疼痛管理も含まれていることから、我々にとっては重要な資料の一つである。これと同様に実験動物福祉の見解をWVAが述べるにあたって、どこかの雑誌にその見解の裏付けとなる論文を発表する可能性が高い。関連の国際文書としてはOIE 綱領の第7.8章に実験動物福祉の国際標準が示され、ISO 10993-2 Animal Welfare Requirement が医療機器の安全性評価のための文書として公刊され現在改訂中である。WVAではこれらの文書も参考に作業を進めている。現理事会任期はあと1年以下となっているので、任期内に公刊されるものと思われる。会員には実験動物福祉の専門家も多かろうと思われるので積極的に情報交換を行い、我が国の考え方をWVA文書に反映させたいと考えているのでご意見をいただければ幸いである。

9. レジデントプログラム委員会

委員長：安居院高志（北海道大）

委員：浅野 淳（副委員長、鹿児島大）、高木久宜（浜松医大）、矢野一男（日本メドトロニック）、富岡幸子（鳥取大）、小山公成（アステラス製薬）、横山政幸（武田薬品工業）、池田たま子（新潟県保健環境科学研究所）、木村 透（山口大）、奥田 陽（シミックファーマサイエンス）

1) 委員会開催

- ・4月31日と5月25日の2回、Zoomにて委員会を開催した。

2) 活動報告

- ・新たに始まるレジデントプログラムの策定作業が終了し、理事会でも承認された。9月の総会の審議事項として予定されており、承認されればこのプログラムが実行に移される。

10. 将来検討委員会

委員長：高橋英機（九州大）

委員：内橋真悠（日本メドトロニック）、小久保年章（量子科学技術研究開発機構）、加藤啓子（京都産業大）、加納 聖（山口大）、菊月隆太（大正製薬）、高井 了（中外製薬）、新美君枝（理研）、林元詩織（日本たばこ産業）

1) 委員会開催

- ・第68回日本実験動物学会学術集会の現地開催中止に伴い、委員会は6月15日にZoomによるWeb開催として行った。

2) 活動報告

- ・JCLAMの問題点・課題を把握するための理事および委員会委員向けに行ったアンケートについての報告及びそのとりまとめをZoomとメーリングリストを活用して行った。

11. 認定試験ワーキンググループ

委員長：佐々木宣哉（北里大）

委員：長崎健一（日本食品分析センター）、廣瀬直毅（京都大）、森松正美（北海道大）、古市達哉（岩手大）

1) 委員会開催

- ・メール会議にて実施した。

2) 活動報告

- ・メール会議にて、ACLAMの指定教科書の翻訳本の作成及び出版を検討した。

特集

「JALAM 会長の 9 年間を振り返って」

北海道大学大学院獣医学研究院
実験動物学教室
安居院高志

昨年 9 月の総会で 9 年間務めた会長を退任しました。編集委員会より会長を退任した手記を求められましたので、その間の出来事を備忘録として纏めることにしました。以下の出来事はあくまで私の印象に残った私的なことで、JALAM としてその他に重要な出来事があったと思いますが省略されております。ご容赦下さい。

2011 年

JALAM 会長に就任。3 月に起きた東日本大震災のため 4 月の獣医学会が中止となり、JALAM 総会も開催されなかった。9 月の秋の獣医学会において JALAM 総会が開催され、そこで会長に任命された（当時は獣医学会は春秋 2 回開催されていた）。

2012 年

JCLAM が JALAM から独立。専門医が 100 名を超え、筆記試験が必須の本制度により認定された専門医の数がファウンダー専門医の数を超えた。JALAM では研修委員会が学術集会委員会より独立し、ウェットハンド研修を担当するようになった。

2013 年

3 月 30 日（獣医学会終了日の翌日）に渋谷エクセル東急ホテルにて JALAM 20 周年事業を挙行。「実験動物医学の国際的進展」と題したシンポジウムと祝賀会を行った。シンポジウムには下記の通り ACLAM、ECLAM、KCLAM、JCLAM から代表者が公演を行なった。詳細は JALAM News Letter No. 41 に掲載されている。

1. ACLAM: Dr. Kathryn Bayne (AAALAC International)
演題：The Role of the Laboratory Animal Veterinarian in Contemporary Animal Research Programs
2. ECLAM: Dr. Judy MacArthur Clark (Animals in Science Regulation Unit)
演題：20 years of European Regulation: what has changed?
3. KCLAM: Prof. Min-Jae Lee (KCLAM President, Kangwon National University)
演題：The role and current status of KCLAM
4. JCLAM: Dr. Tsutomu Miki Kurosawa (JCLAM President, Osaka University Medical School)
演題：JALAM and IACLAM

また、この年から獣医学会が秋季のみの年 1 回開催になったため、JALAM 総会も 9 月に、事業及

び会計年度を現在の 8 月 1 日～7 月 31 日に変更した。

2014 年

JALAM 理事選挙が行われ、9 月の総会で会長として再任される。環境省の「動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針及び動物の飼養及び保管に関する基準等の改正案」に対してパブリックコメントを提出した。内容の主なものは、動物実験における獣医師の役割を法律あるいは基準、指針等で明確にして欲しいというものである。残念ながらこの JALAM の悲願ともいえるべきお願いは考慮されることなく扱われ、現在でも未だに実現しておりません。

2015 年

JCLAM と共同で「げっ歯類の胎児・新生児の鎮痛・麻酔および安楽死に関する声明（第 2 版）」を発表した。私も委員の一人として声明の執筆に関わった。現在でもまだ最新の知見として動物実験の実施の際は役立っていると思います。

2016 年

獣医学会からの要請でウェットハンド研修会を JCLAM 主催とし、JALAM は共催の形で資金面で援助することとなった。会費が 2,000 円から 3,000 円に値上げされ、学生会員を増やすために新たに学生会員費が半額の 1,500 円に設定され、学生にとっては値下げとなった。

2017 年

動愛法の改正に対し本会から意見書を提出した。主な内容は 3 年前に環境省へのパブリックコメントとして提出した動物実験における獣医師の役割の明確化である。残念ながらこの意見書も考慮されず、この状態は現在まで続いています。JCLAM でレジデントプログラム委員会を立ち上げレジデントプログラムの策定の協議を始めた（私が当委員会の委員長を務めることとなった）。

2018 年

私がアドホック専門委員会委員長としてまとめた委員会報告「イヌを試験・研究及び教育に使用する際の配慮事項」が 2017 年 12 月に公表された。現在獣医学教育におけるイヌの使用等で問題となっている事項を先取りした報告書である。JALAM News Letter No. 50 の委員会報告に掲載されているので関係者は今一度読んで頂きたい。報告書は 2017 年 12 月に公表されているが、JALAM News Letter には 2018 年度に取り上げられているので、2018 年の出来事とした。

2019 年

動愛法の改正に対する要望書を環境大臣宛に提出した。主な内容は 2 年前の意見書と同様、動物実験における獣医師の役割の明確化である。残念ながら考慮されなかったことは 2 年前と同じです。

私的なことですが、9 月の獣医学会初日の JCLAM 理事会中に体調を崩し、救急車で筑波大学病院に搬送されました。そのため JALAM 総会に出席できず会員の皆さまにはご迷惑をお掛けしまし

た。JCLAM 総会でも副会長として議長を務める予定でしたが、これも果たせずご迷惑をお掛けしました。その後 11 日間に渡り筑波大学病院に入院することとなり酷い目に会いました。

2020 年

新型コロナウイルス感染拡大のため大変な 1 年となった。5 月に予定されていた実験動物学会は誌上開催となり、9 月の獣医学会は Web 開催となった。JALAM シンポジウムは中止としたが、一般演題発表は Web 上で行われたため、前島賞の選考は行なった。JCLAM では全ての活動を 1 年間凍結し、新規の専門医試験、更新、ウェットハンド研修会、JCLAM フォーラムなど全ての活動が凍結された。全国的に緊急事態制限が発令され、大学、研究所などへの立ち入りが制限された。一部の実験動物施設では動物の世話ができないなどの混乱が生じた。

私自身はこの年に行われた理事選挙には立候補せず、9 月の総会で会長を退任した。

9 年間を振り返り驚くほどの長い時間を過ごしてきたものと我ながら驚いています。この手記を執筆するに渡り、JALAM News Letter No. 38 から No. 55 までを読み返しました。毎年の出来事が驚くほど忠実にそして詳細に記録されています。歴代の情報・編集委員会の委員の皆様のご努力には頭が下がります。これは JALAM が誇る代表的な遺産の一つと言えるのではないのでしょうか。今後も JALAM News Letter の発刊を継続して行って頂きたいと思っております。

事務局便り

会費納入状況とお願い

平成29-30（2017-18）年度より、会費の額が変更になりましたが、切り替え時に納入金額のミスが相次ぎ、一部会員に現時点でも納入金額に過不足があります。また、複数年分前納された会員も一部見受けられますので、納入時には必ず事前に会員HP（<https://jalam.jp/htdocs/>）より個人の会費納入履歴の閲覧をお願いします。会費納入に過不足がある場合は確認できるようになっていますので、適正な金額を納入していただけますようお願い申し上げます。

なお、本年度の会費納入状況について、令和3（2021）年7月31日現在の会費未納者数は以下のようになっています。

- 1年未納 94 名 （2020-21年度会費未納者）
- 2年未納 67 名 （2019-18、2020-21年度会費未納者）
- 3年未納 50 名 （2018-19、2019-20、2020-21年度会費未納）

コロナ禍が終息せず、イレギュラーな状態が続いていることから、例年になく未納者が多くなっております。会費未納者の方には、「会費納入のお願い」メールを改めて送付させて頂いていますが、下記口座に会費を納入して頂くようお願いいたします。

（1）郵便局振替

口座番号：00130-4-323981 口座名称：日本実験動物医学会

（2）ゆうちょ以外からの振込

金融機関名：ゆうちょ銀行 口座番号：0323981

店名（店番）：〇一九（ゼロイチキュウ）店（019） 預金種目：当座

なお、3年以上会費を滞納されますと（上記50名が該当）、日本実験動物医学会会則に従って本会を退会されたものとして、9月開催の理事会の承認を経て退会処理（除名処分）の予定です。

○日本実験動物医学会会則（http://jalam.jp/htdocs/index.php?key=mufz8nnl7-1309#_1309）

もし特別な事情で会費を納入できない場合（事務処理に振込用紙が必要等）には個別対応致しますので、会計・事務局担当理事（角田 新しい E-mail アドレス: a-skakuta <at マーク> g.ecc.u-tokyo.ac.jp）までご連絡を頂ければ幸いです。（<at マーク>部分は「@」に変換してお送りください）

なお、9月より事務局体制を一部変更することになり、東大・実験動物学研究室内に事務局を置くこととなりましたので、今後ともよろしくお願いいたします。

〈編集後記〉

新型コロナウイルス感染症の拡大はなかなか落ち着く様子がなく、先行きの見えづらい日々が続いています。また、今夏も全国各地を豪雨が襲いました。被災された方々にお見舞い申し上げます。

今号では、JALAM 前会長の安居院高志先生に「JALAM 会長の 9 年間を振り返って」と題して特集記事を寄稿していただきました。2011 年から 2020 年までの JALAM の主な出来事がまとめられております。安居院先生をはじめとして多くの先生方が関わってこられた活動です。これからの JALAM を考えるきっかけにもなると思いますので、是非お読みください。

末筆になりましたが、ご多忙のところを原稿執筆に時間を割いていただいた先生方に御礼申し上げますと共に、会員の皆様のご健康を心よりお祈りいたします。

(情報・編集委員 GW)